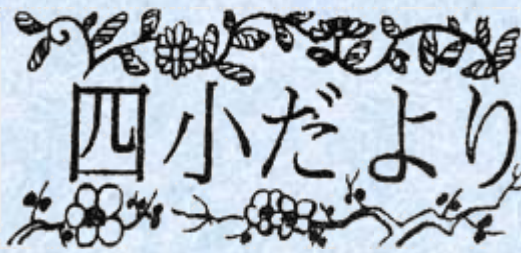




学校標語 「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」



日野市立日野第四小学校

校長 三浦 寛朗

令和 7 年 2 月号

学校 Web ページ

<https://www.hino-kyo.ed.jp/e-hino4/>



前向きにとらえる・やるべきことをきちんとやる

校長 三浦 寛朗

暦の上では冬真っ只中ですが、暖かな日差しの日も多いです。今年の冬は暖冬となるのでしょうか。2月を俳句の季語で表すと残雪、余寒など寒さを表しているものもありますが、立春、初春、早春、梅など、春の訪れを感じられるような言葉もあります。また、「如月（きさらぎ）」という美しい旧暦の月名もあります。如月の語源には、寒さのために着物を重ねる「衣更着」、春めいて陽気が盛んになる時季を意味する「気更来」などがあります。「きさらぎ」という言葉には寒さに耐えながら、春という目覚めの季節を静かに待つという意味が込められているように感じます。学校でも4月の進級・進学に向けて、子供たち一人一人が自分のやるべきことを丁寧に、じっくりと進めていけるよう、2月の教育活動を進めてまいります。

さて、先日、アメリカ大リーグで活躍したイチロー選手が、日本人として初めて野球殿堂入りを果たしたという、とてもうれしいニュースが報道されました。イチロー選手は大リーグ1年目の2001年にシアトルマリナーズで首位打者と盗塁王に輝き、アメリカン・リーグ最優秀選手（MVP）と新人王を同時に受賞しました。2004年にはメジャー新記録のシーズン262安打で2度目の首位打者も獲得しています。デビューから10年連続で200安打以上を記録し、外野手としてゴールドグラブ賞も10年連続で受賞という快挙も成し遂げています。大リーグでの通算成績は2653試合で打率3割1分1厘、117本塁打、780打点、509盗塁です。

野球殿堂入りは、全米野球記者協会に在籍10年以上の記者による投票によって決定します。各記者が成績、品格、チームへの貢献度などを考慮して投票し、75%以上得票で殿堂入りとなるそうです。輝かしい成績を残しているイチロー選手は、満票での野球殿堂入りとなるのではと予想されていました。しかし、殿堂入りは決定しましたが、イチロー選手に投票しなかった人が1名いました。殿堂入りが決定した後の記者会見で、イチロー選手は次のように話しています。

「1票足りないというのは、凄く良かったと思います。しかもジーターと一緒に。足りないものを補いようがないですけど、努力とかそういうことじゃないからね。いろんなことが足りない。人って。それを自分なりの完璧を追い求めて進んでいくのが人生だと思うんです。これとそれはまた別の話なんですけど、不完全であるというのはいいなって。生きていく上で不完全だから進もうとできるわけです。そういうことを改めて考えさせられるというか、見つめ合える。そこに向き合えるのは良かったなと思います」

一票だけ投票されなかったということで、悔しい気持ちもあると思います。しかし、そういった気持ちは出さずに、ポジティブに答えるなんて、とてもすてきな考え方だと感じました。物事の受け止め方で、その人の生き方、人生は大きく変わっていきます。どんな出来事でも自分の成長につながるように前向きにとらえることのできる強さを、子供たちにも教えていきたいと思います。

イチロー選手は、他にも数々の名言を残していますが、私が特に印象に残っているのはあるテレビ番組の中で小学生から質問を受けた時のことです。「イチロー選手みたいに野球が上手になるにはどうすればいいですか?」という質問に、イチロー選手は、次のように答えました。「いい質問だね。君は、学校の宿題をちゃんとやっていますか。学校の宿題と勉強をちゃんとやることだね。まず、やるべきことをきちんとやるのが大切だと思うよ」

子供たちが学力や体力など、様々な力を伸ばしていくためには、小さなやるべきことを積み重ねていくことが大切です。食事を三食しっかりと食べる、早寝・早起きといった規則正しい生活をする、挨拶や返事を元気にする、ルールや約束を守る、人の話をしっかりと聞く、自分の仕事に全力で取り組むなど、普段の生活の中には、やるべきことがたくさんあります。このやるべきことを毎日継続して行っていくことこそが、子供たち一人一人の成長につながっていくのだと思います。

本校でも、日々の学校生活の中で、子供たち一人一人が自分のやるべきことをきちんとできるように声掛け、支援をしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。